

夏のおもいで

秋更けり

夏は疾うに過ぎたれど

残るあつさも癒えたれど

残りたるは その記憶

いたずらな眩しさに 目を醒ます

独り寝の 夢なき身には かくも長き 夏の短夜 ようよう明くる

ただのろのろと 時は流れ

甘くもなく せつなくもさえなく

風も吹かぬこの部屋で

熱れと湿りのそのなかで

わが身ひとつ じつと凍える

ああ この真夏の昼下がりの絶望的な暗さよ

我が夏のおもいでは こればかり

来もせで夏は 去りにけり

われのみと な思いぞ この孤独